

# 甲 11

[HOME](#)>河川の中上流部の溪相についての考察「まえがき・目次」>第1章「淵について」

## 河川の中上流部の溪相についての考察

### まえがき・目次

私は、溪流釣りを長年の趣味としています。

最近では釣りに出かける回数が以前より少なくなりましたので、溪流で実際に釣りをするだけでなく、溪流釣りの事をあれこれ考える事も楽しみとなっています。

溪流釣りを始めた当初より、溪流の作り出す様々な景観を眺めるのを楽しみにし、またその景観に興味を持って来ました。やがてその興味は次第に溪相に関連する様々な疑問に替わって来ました。

例えば、ここになぜ淵が存在するのか。どうして淵が、また瀬が出来たのか。どのような仕組みによって溪相が変化していくのか。砂防堰堤はどのように治水の役に立っているのだろうか等々。疑問は増えるばかりでした。

溪流釣りを始めてからずいぶんの月日が経過した最近、ようやくそれらの疑問にある程度の回答を見つけることが出来るようになったと思います。

ここに掲載する文章は溪流とその溪相について、私が個人的に様々観察して考察したものです。全てが観察とそれに基づく推論の結果であります。

もちろん専門の研究者ではありませんので、実証的調査も実験も行っておりません。全て仮説と言うべきものです。それぞれの説明についてはそれなりに観察を重ね考えを重ねたものですが、全くの的外れや間違えがあるかもしれません。また、用語やその使い方も統一されていません。

溪相について興味をお持ちの釣り人や、河川の実践的な業務に携わる皆様のご批評や、反論、ご教示を頂ければ幸いです。

なお今後、記述内容の変更や改善が有るかと思いますが、予めご了承下さい。

### 考察の対象

石や岩が多くある河川の中上流部、いわゆる溪流を考察の対象としています。

主に中小河川が対象です。大きな河川については基本的な考え方は同じだと思いますが、観察する機会が少ないのであまり自信がありません。

## 用語について

なるべく多くの人に分かり易く書いたつもりですが、釣り人だけが使う言葉や、一般的ではない言葉があるかも知れません。用語についての説明もご覧下さい。

## 溪相(ケイソウ)

主に釣り人が使う言葉で、河川の景色、形態、有様を表現する時に使います。人の顔について「人相」と表現するのと同様の使い方をします。

溪流においても、水のある場所ならどこにでも魚がいる、と言う訳ではありません。溪流の様々な場所は、水の流れや深さ、石や岩やその他の障害物などにより、それぞれに様相が異なっています。魚もそれぞれの場所により生息状況が異なり、釣れる釣れないの可能性が異なります。

釣り人もそれに合わせて、釣れる可能性が最も大きい場所を考えながら竿を出しています。釣り人はそれぞれの場所の様相を常に考慮しています。溪流のそれぞれの場所の特徴を表現する言葉が溪相です。

## 使用例

「去年は〇〇川が良く釣れたと言う話だけど、どんな溪相かな？」

「この前の大水で荒れちゃって淵はみんな埋まっちゃったよ、もう駄目だね。以前は淵あり、瀬ありでいい川だったんだけどね。」

「△△川は溪相がいい割に魚が少ないよね」

「そうなんだよ。溪相は良いんだけどね、その割りに釣れないよね。釣り人が多すぎるんじゃないかな。」

## 溪相が良い

河川の中、上流域の景色または状況を表す言葉で、河川を構成する要素が安定的に存在する状況を言います。

淵や瀬が多くあり、水流(流速、深さ、流れの方向)は複雑に変化して流れています。少しの雨や出水でも濁りが生じません。河川全体の生物は多様でかつ数多く生息しています。

## 溪相が悪い

河川の中、上流域の景色または状況を表す言葉です。特に悪い例として、大きな出水の後やダム放水後などの様子を挙げることが出来ます。

淵はその多くが小石や砂に埋まり、河川は淵や荒い瀬の少ない単純な流れになっています。水は、樋や水路を流れる水のように単調に流れ、水流の変化は少なくなっています。雨や少しの出水でも濁りが発生します。生物は種類や数が少なくなっています。

釣り人は良くない溪相を見て「砂っけが多い」などと表現する事があります。溪相が悪い状態ではその至る所で砂や小石を多く見る事ができます。

多くの河川の中上流部は上記の良い溪相と悪い溪相の間にありますが、降雨や出水の状況によって河川の溪相は常に変化しています。

#### 参考文献について

溪流の様相に興味を持ち始めたころ、溪流についての知識を得たいと思い、図書館や書店でそれらに関する書籍を探してみました。

ところが当時、それらに関する書籍は釣りに関する物以外にはほとんど見つかりませんでした。ただ1冊、たまたま古書店で見つけた変形サイズの本がありました。白黒の写真入りで、溪流の景色を見るのが好きな私にはとても好い本に思いましたが、内容、解説は溪流釣りの釣り人なら誰でも知っているような事ばかりで物足りない物でした。残念な事にこの本はその後、行方不明になってしまいました。

今回、溪流についての文章をまとめるにあたり、間違えた考えを発表するのを避けるために何らかの資料での確認作業を考えたのですが、二つの理由で取りやめました。

ひとつは、資料を探したり読んだりしている時間がありませんでした。私の本来の仕事がなかなか忙しく、実際、私自身の文章を書くのに精一杯で、とても人様の書いた物を探し出し読んで見る時間は取れそうにありません。

もうひとつは、資料に影響を受けて安易にそれらから文章を引用してしまうのではないかと、との恐れがありました。研究者や専門家ではありませんが、それは避けるべきだと考えました。

そんな訳で、参考資料は特にありません。但し、釣りの本は好きで良く読みましたから、それらの中の記述が知らないうちに私の考えになっている事は考えられます。

但し、章によっては、事実の確認、或いは表現の引用などのために参考資料を使用しています。その場合は章ごとにその旨と資料名を表示しています。

もし、私の書いたものが諸先輩、諸先人の考えたものと同じならば、私の考えが間違えていなかったこととなり、私の喜びとなるでしょう。また、私独自の考えがあったならば、これまた私の喜びであります。

#### 著作権について

このホームページ上に掲載する文章、写真、イラストなど文字・画像等のコンテンツの著作権は、執筆者「杉村和高」にあります。但し、各章の最初に使用している植物その他のイラストを除きます。

これらの情報は、「私的使用」又は「引用」など著作権法上認められた場合を除き、執筆者に無断で転載、複製、放送、公衆送信、翻訳、販売、貸与などの利用をすることはできません。

個人的に引用して公開される場合は、引用元と引用文の掲載年月日の明記をお願いし

ます。特にWeb上での取り扱いには充分なご注意と配慮をお願い致します。

## リンクについて

リンクは自由ですが、このページ又はトップページへお願い致します。

## 更新履歴

更新履歴はそれぞれの章の題名の下に最終更新年月日を記入します。  
必要に応じてご確認ください。

## 目次

### まえがき・目次

[第1章 淵について](#)

[第2章 堰堤について](#)

[第3章 コンクリート護岸について](#)

[第4章 石や岩、砂や小石\(その1\)](#)

[第5章 石や岩、砂や小石\(その2\)](#)

[第6章 溪流のでき方\(その1\)](#)

[第7章 溪流のでき方\(その2\)](#)

[第8章 治山治水](#)

[第9章 治水\(1\)上流の問題](#)

[第10章 治水\(2\)中流の問題](#)

[第11章 土石流の跡を考える](#)

.....PDF: [第11章 土石流の跡を考える](#)

[新12章 石や岩の多い河川の上流や中流の土砂流下について考える](#)

.....PDF: [新12章 石や岩の多い河川の上流や中流の土砂流下について考える](#)

[報道記者の皆様へのお願い](#)

[特許の使用についてお知らせ](#)

[別冊 安倍川大河内堰堤と白濁化現象について](#)

[別冊 砂礫浜を考える\(静岡の前浜の場合\)その1](#)

[別冊 砂礫浜を考える\(静岡の前浜の場合\)その2](#)

[別冊 安倍川河口から続く静岡の砂礫浜海岸\(その1\)](#)

.....PDFファイル: [安倍川河口から続く静岡の砂礫浜海岸\(その1\)](#)

[別冊 安倍川河口から続く静岡の砂礫浜海岸\(その2\)](#)

.....PDFファイル: [安倍川河口から続く静岡の砂礫浜海岸\(その2\)](#)

別冊 安倍川河口から続く静岡の砂礫浜海岸(その3)

.....PDFファイル:安倍川河口から続く静岡の砂礫浜海岸(その3)

#### 更新履歴

2015/2/20「新12章 石や岩の多い河川の上流や中流の土砂流下について考える」の一部を変更

2014/12/31「別冊 安倍川河口から続く静岡の砂礫浜海岸(その1、2、3)」及び、それぞれのPDFファイルの一部を変更、訂正、削除しました

2014/12/7「報道記者の皆様へのお願い」の一部を訂正しました

2014/10/18「第11章土石流の跡を考える」「新12章 石や岩の多い河川の上流や中流の土砂流下について考える」のそれぞれにPDFファイルを用意しました

2014/10/16「新12章 石や岩の多い河川の上流や中流の土砂流下について考える」に「概要」と「まとめ」を追加

2014/9/25

安倍川河口から続く静岡の砂礫浜海岸(その1、2、3)のそれぞれにPDFファイルを用意しました

2014/9/24 第11章土石流の跡を考える に「概要」と「まとめ」を追加

2014/9/18

安倍川河口から続く静岡の砂礫浜海岸(その1、2、3)のそれぞれに「概要」と「まとめ」を追加

2014/7/29 特許の使用についてお知らせ を公開

2014/7/27 報道記者の皆様へのお願い を公開

2013/11/24 別冊 安倍川河口から続く静岡の砂礫浜海岸(その3)を公開 2013/8/29 第12章 上流の土砂の流下について考えるを全面的に書き換えて、新たに「新12章 石や岩の多い河川の上流や中流の土砂流下について考える」として公開する

2013/7/10 別冊 安倍川河口から続く静岡の砂礫浜海岸(その2)を公開  
同じく(その1)を一部加筆訂正しました。

2013/4/5 別冊 安倍川河口から続く静岡の砂礫浜海岸(その1)を公開

2012/1/18 第11章 土石流の跡を考える、第12章 上流の土砂の流下について考える、を公開

2011/5/23 別冊 砂礫浜を考える(静岡の前浜の場合)その2、において海岸の現状について一部認識の誤りがあったので訂正しました。

2011/5/3 別冊 砂礫浜を考える(静岡の前浜の場合)その1、その2 を公開。

2010/6/3 別冊 安倍川大河内堰堤と白濁化現象について を公開。

同時にまえがき・目次も加筆しました。

2010/2/10 第9章 治水(1)上流の問題、第10章 治水(2)中流の問題を公開。

第5、6、7、8章の題名表記の横の画像を入れ替えました。

2009/9/6 ページの拡張子をhtmlに統一しました。背景色を一部変更、語句の統一を

しました。内容の変更はありません。

2009/7/29 7章を分割して一部を加筆訂正の後に新第5章とし、一部を加筆訂正して新8章としました。旧5章6章は繰り下げて新6章7章としました。

2章から7章まで一部語句の訂正をしました。

2009/6/21 第4章を加筆訂正、改題しました。3章、1章も少し加筆しました。

2009/6/18 第2章「淵について」語句の間違いを訂正しました。

2009/6/14 第3章「コンクリート護岸について」を加筆訂正しました

2009/6/7 第2章「堰堤について」を加筆訂正しました

2009/5/28 第1章「淵について」に2項目を追加しました

2009/4/12 第7章 石や岩、砂や小石 を公開

2009/4/7 第6章 溪流のでき方(その2)を公開

2008/12/18 第1章「淵について」に2項目を追加しました

2008/10/28

「河川の中上流部の溪相についての考察」の、まえがき、1、2、3、4、5章を公開

[HOME](#)>[河川の中上流部の溪相についての考察「まえがき・目次」](#)>[第1章「淵について」](#)